

女川町復興まちづくり住民説明会（大崎） 議事録

日 時：平成24年2月11日（土） 10：30～12：30

場 所：大崎合同庁舎1階 会議室

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員

水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. JRの復旧見込みはどうなっているのか。
- A. 石巻線は復旧していくという話はもらっている。4月に渡波まで復旧。JRとしては2年以内に浦宿まで復旧。女川駅については、場所が決まれば設計を行う。
- Q. 新しい計画の商業地域に店舗兼用の宅地を持っていた場合、そこに自分の店舗だけを持つときは、買取に応じなくてもいいのか。
- A. 基本的にはまず全体を区画整理の事業の対象にすることで何らかのやり取りは出てくる。店舗については可能になると思う。
- Q. 町外とつながる避難道路について計画はあるか。
- A. 県、石巻市と連携、調整し5ルートを確認する。高台造成地を結ぶ道路についても整備していく計画。
- Q. 北浦から町内への移転は可能か。石巻への移転ではどうか。
- A. 防災集団移転の対象は基本的に町内であれば対象になるが、町外では対象にならず利息の支援も受けられない。町外への移転の場合、区画整理等の対象ということで買い取らせてもらう場合もあるが、そうでない場合もある。
- Q. 300坪持っていたら、同程度買えるのか。
- A. 住んでいた住宅地は基本買い取る。造成地を購入する場合は上限が100坪となっている。
- Q. 多目的エリアについてどのような利用を考えているのか。
- A. 具体的なものはこれから。スポーツ施設、企業誘致、等が考えられる。ほかにいろいろなアイデアももらっている。運用の仕方についてのアイデアはこれからもいただきたい。
- Q. 小中学校についてはどのように考えているのか。
- A. しばらくは一小、二小一緒にやってもらうことになると思う。
将来的には、町のコア部分で小中一貫校としてやりたいとは思っている。これからの学校を考える集まりを作り、将来の姿と当面のやり方を決めていきたい。女川高校については、あと2年すると廃校になる。その場所に、特別支援校が27年開校の予定。
- Q. 石巻支援学校とは別のものか。
- A. 別。高等学園。ここで学んだ子供たちが、就労の場につながっていくようにという学校。加工屋さんの

受け入れを前提としている。

保育所については、建物としてあり方としてもそれほど遠くない時期に新たな形でやっていくようになると思う。

Q. 女川町の未来像がわかった。被災地のモデルになるように進めてほしい。

A. 被災地の中でのモデルということもあるが、東北の課題を解決できるまちづくりを目指す。

現在と、先々の両方を見据えて積み上げていきたい。いろんな状況はあると思うが、女川に住んだ方がいいというふうな町にはできると思う。協力を心から願います。

以 上